

中国、石油備蓄基地 8 カ所を新設、唐山市など有力視

2月5日 15時8分配信 サーチナ

5日付上海証券報によると、中国は2009年、石油備蓄戦略の第2期事業として国家石油備蓄基地8カ所の建設に着工する。

建設地は明らかにされていないが、河北省唐山市、甘肅省蘭州、新疆ウイグル自治区ピチャン、重慶市などが有力視されている。

中国は03年、遼寧省大連、山東省青島（黄島）、浙江省舟山、浙江省鎮海の沿海4都市で第1陣となる国家石油備蓄基地の建設に着工。すでに4カ所ともに完成し、操業を開始した。4カ所の備蓄能力は1400万トンに上る。

国家發展改革委員会は昨年、国家石油備蓄基地の第2期計画の策定作業が終了したと発表している。国家エネルギー局の張国宝局長は前月、共産党機関紙・人民日報に寄稿した論文で、「中国は世界のエネルギー需要の縮小を機に、石油備蓄を増やすべきだ」との考えを示した。（情報提供：東亜通信社）（唐山市日本事務所整理）